

令和6年度
青森県中学校教育課程研究集会
【特別活動部会】

大間町立大間中学校
加藤 智也

特別活動に関する主題

生徒一人一人が、集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」の視点から、集団及び自己の問題を解決していくための学習指導と学習評価の工夫・改善

1

2

発表の流れ

- 1 授業の概要について
- 2 授業の様子について
- 3 評価の実際について

I 授業の概要について

- 学級活動（3）
 - ア 社会生活、職業生活との接続を踏まえた主体的な学習態度の形成と学校図書館等の活用
 - 現在及び将来の学習と自己実現のつながりを考えたり、自主的に学習する場としての学校図書館等を活用したりしながら、学ぶことと働くことの意義を意識して学習の見通しを立て、振り返ること

I 授業の概要について

(1) 評価規準

よりよい生活を築くための 知識・技能	集団や社会の形成者としての 思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係を よりよくしようとする態度
社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していくことの意義を理解している。 現在の学習と将来の社会・職業生活とのつながりを考え、自分らしい生き方の実現を図るために、必要な知識及び技能を身に付けている。	自分らしい生き方の実現に向け、現在の学習や将来の進路についての課題を見いだしている。 主体的に学習に取組、働くことや社会に貢献すること、自己の将来について、適切な情報を収集して考え、意思決定して実践している。	将来の生き方を見通したり、現在の生活や学習を振り返ったりしようとしている。 働くことと学ぶことの意義を意識し、社会的・職業的自立に向けて自己実現を図ろうとしている。

5

I 授業の概要について

(2) 生徒の実態

物事を前向きに捉え、積極的に活動できる生徒が多い。話合い活動では、小さいグループの中では意見を出し合えるが、それを**全体の場で自分から共有**することができない。また、全体の場になると、よく考え思ったことをそのまま言ったり、**他の意見の悪い所だけに注目**したりする生徒が多く、意見をまとめられない場面も見られた。

そこで本時は、**題材について考える時間を十分確保**することや、**小グループでの話合い活動**にすることで、**自分の意見を伝えるとともに、仲間の意見をじっくり聞く**場面をつくり、話合い活動に参加できない生徒が出ないようにしていきたい。自分の考えが整理できなかったり、意思決定に悩んだりしている生徒には、机間指導を通して、**考え方を整理できるよう支援**していきたい。

I 授業の概要について

(3) 活動計画（事前）

期日	活動の場	活動内容	指導上の留意点	目指す生徒の姿と評価方法
5/24	帰りの会	・学習計画表をなぜ作成するのかを考える。	・計画を立てて学習することが、将来、自分で何かを学ぶ時に役に立つことを確認する。	
5/25	学活①	・テスト範囲表を見ながら、学習計画表を作成する。 ・自分でじっくり取り組む範囲を設定し、計画を立てる。	・初めての学習計画作成なので、流れを大事にし、無理のない計画を作成させる。 【観察】	・自身の生活を振り返り、学習の見通しをもうとっている。 【観察】
6/1	学活②	・学年担当の先生と面談をし、助言を参考にしながら生徒自身が自分で作成した学習計画をもう一度見直し、よりよい計画を立てる。	・生徒の目標が実現可能かどうか、時間や内容、学習の進め方について助言する。	・他者からの助言を聞き、自身を高めようとしている。【観察】

7

I 授業の概要について

(3) 活動計画（事前）

期日	活動の場	活動内容	指導上の留意点	目指す生徒の姿と評価方法
6/21	帰りの会	・テストまでの取組を振り返り、次回に向けての課題を考える。	・できるだけ具体的に振り返り、次回につなげられるようにする。	・具体的に反省と課題を記入し、次につなげようとしている。 【ワークシート】
11/8	学活③	・学年担当の先生と面談をし、生徒自身が自分で作成してきた学習計画をもう一度見直し、よりよい計画を立てる。	・生徒の目標が実現可能かどうか、時間や内容、学習の進め方について助言する。	・他者からの助言を聞き、自身を高めようとしている。【観察】
11/21	帰りの会	・テスト前日の過ごし方が、将来のどんなことに役立つかを知る。	・生徒から引き出しながら、「将来、大事な試験の日は、必ずやって来る。だから、今のうちに練習しておく。」という意識付けをする。	

8

I 授業の概要について

(3) 活動計画（事前）

期日	活動の場	活動内容	指導上の留意点	目指す生徒の姿と評価方法
11/22	帰りの会	・テストまでの取組を振り返り、次回に向けての課題を考える。	・できるだけ具体的に振り返り、次回につなげられるようする。	・具体的に反省と課題を記入し、次につなげようとしている。 【ワークシート】
11/24	帰りの会	・課題をタブレットで打ち込み提出する。	・自分の課題を、「方法」「生活習慣」「意欲」の3つの項目に分け、自分で選択できるようにする。	
11/27 28	帰りの会	・課題に対する解決策をタブレットで打ち込み提出する。	・実践している内容、理想としている取組など、なんでも打ち込む。	
11/29	帰りの会	・同じ班の仲間の課題を知り、助言する解決策を事前に決める。	・資料を配付し、直接記入させる。	

9

I 授業の概要について

(3) 活動計画（事後）

期日	活動の場	活動内容	指導上の留意点	目指す生徒の姿と評価方法
12/15	帰りの会	・テストの振り返りをもとに全校実力テストに向けて、冬休みの目標、計画を考える。	・実践できそうな計画が立てられるよう助言する。	
1/16	帰りの会	・テストまでの取組を振り返り、次回に向けての課題を考える。 ・テスト範囲表を見ながら、学習計画表を作成する。	・できるだけ具体的に振り返り、次回につなげられるようする。 ・前回は、具体的な解決策をはっきり決めてから計画を立てたことを確認し、このことが将来、よりよい取組にしようとした時に必ず必要になってくることを踏まえて作成させる。	・具体的に反省と課題を記入し、次につなげようとしている。 【ワークシート】
1/26	学活⑤	・学年担当の先生と面談をし、生徒自身が自分で作成してきた学習計画をもう一度見直し、よりよい計画を立てる。	・生徒の目標が実現可能かどうか、時間や内容、学習の進め方について助言する。	・他者からの助言を聞き、自身を高めようとしている。 【観察】
2/14	帰りの会	・1年間の取組を振り返り、来年度や将来にどうつなげるか考える。	・今後の受検や将来の職業選択の際に、計画的に学習を進めるの大切さを確認する。	・具体的に反省と課題を記入し、次につなげようとしている。 【ワークシート】

10

2 授業の様子について

○本時の流れ

- (1) 課題の把握
- (2) 解決方法の話し合い

- ①活動の説明
- ②話し合い活動①【同じ班の仲間からの助言を受ける】
- ③情報を整理する
- ④別の班に移動する
- ⑤話し合い活動②【似た課題をもつ仲間から助言を受ける】
- (3) 意思決定する

大間中の話し合い活動
 ①出し合う
 ②比べ合う
 ③まとめる

2 授業の様子について

(1) 課題の把握

本時の課題「仲間の助言をもとに、課題解決に向けて実際に取り組む内容を決めよう」

【確認事項】

- ・2学期期末テストの振り返りから次の全校実力テストに向けて、自分の課題を設定したことを確認する。
- ・仲間の意見も参考にして、次の学習計画で実践する内容を決めていく、本時の流れを確認する。

2 授業の様子について

(2) 解決方法の話し合い

①活動の説明

- ・電子黒板に活動の流れを表示しながら説明する。
(ア) 班の仲間と助言し合う
(イ) 似た課題をもつ仲間と助言し合う
(ウ) 課題の解決策を自分で決める（今日の目標）



13

2 授業の様子について

○本時の流れ

- (1) 課題の把握
- (2) 解決方法の話し合い

- ①活動の説明
- ②話し合い活動①【同じ班の仲間からの助言を受ける】
- ③情報を整理する
- ④別の班に移動する
- ⑤話し合い活動②【似た課題をもつ仲間から助言を受ける】
- (3) 意思決定する



14

2 授業の様子について

② 話合い活動①【同じ班の仲間からの助言を受ける】

- ・解決方法の一覧をもとに、班の仲間と助言をし合い、自分用のワークシートにメモをさせる。
- ・全体の進行を担任がする。時間を計りながら、一人ずつに焦点を当てて進める。

(ア) 出し合う

- ・班の仲間に解決策を提案する。

(イ) 比べ合う

- ・解決策を選びたくなるよい点を付け足していく。

2 授業の様子について

③ 情報を整理する

- ・もらった助言をもとに、情報を整理する。

④ 別の班に移動する

- ・情報の整理が終わったら、次の班に移動する。
- ・班は事前に指定していて、課題の分類が同じ人が集まるようになっている。

15

16

2 授業の様子について

○本時の流れ

- (1) 課題の把握
- (2) 解決方法の話し合い
 - ①活動の説明
 - ②話し合い活動①【同じ班の仲間からの助言を受ける】
 - ③情報を整理する
 - ④別の班に移動する
 - ⑤話し合い活動②【似た課題をもつ仲間から助言を受ける】
- (3) 意思決定する



17

2 授業の様子について

(3) 意思決定する

- ・仲間からの助言をもとに、数ある取り組みの中から**自分の課題**にあう、**実践可能なものを選択する。**

【評価の場面】

- ・仲間からの助言をもとに、課題解決に向けた取組を意思決定している。【ワークシート】

2 授業の様子について

- ⑤ 話合い活動②【似た課題をもつ仲間から助言を受ける】
 - ・もらった助言をもとに、似た課題をもつ仲間に助言と情報共有をする。
 - ・司会と班構成は、事前にこちらで指定しておく。
 - ・進行の原稿を全員に渡し、各班の司会の生徒に進行させる。
- (ア) 出し合う
 - ・話し合い活動①でももらった助言を互いに共有する。
- (イ) 比べ合う
 - ・集まった助言をもとに、互いが選びやすくなるように、どういう点が、合っていると思うかを出して比べ合う。

18

3 評価の実際について

集団や社会の形成者としての 思考・判断・表現
自分らしい生き方の実現に向け、現在の学習や将来の進路についての課題を見いだしている。 主体的に学習に取り組み、働くことや社会に貢献すること、自己の将来について、適切な情報を収集して考え、意思決定して実践している。



- 本時の評価→单元の評価規準に到達している具体的な生徒の姿
 - ・仲間からの助言をもとに、課題解決に向けた取組を意思決定している。

19

20

3 評価の実際について

(1) 評価をする際に留意したこと、工夫したこと

- ・本時は、PDCAサイクルのA（改善）に焦点を当てた学習活動なので、**実践ではなく、意思決定すること**をねらいにしている。
- ・自分では、なかなか意思決定することができない生徒のために、**自信をもって意思決定ができる**ように、話し合いの目的に合わせて、グループのつくり方を変えた。

21

3 評価の実際について

(2) 授業における生徒の様子や変容

- ・事前に発表する内容を考えていたことで、**自信をもって発表できる生徒がほとんど**。
- ・仲間のために考えて発言する生徒が多かった。
- ・司会原稿を全員に渡すことによって、進行がスムーズになり、意見交換に時間をかけることができた。
- ・よい意見を集めることで、**意思決定に迷いがなかった**。
- ・改善したい内容と実践する内容が合うようになった。

22

3 評価の実際について

(3) 学級活動における、意思決定までのプロセスの1つとして

○成果

- ・仲間の力を借りることで、解決策の幅が広がることが分かり、**協働するよさ**が実感させられた。
- ・自分に自信がなく、意思決定することにためらいがあった生徒にも他者の意見を聞くことで、**自信をもって意思決定できること**を実感させられた。

○課題

- ・日常生活への応用
→自分自身の様々な課題解決のために、仲間の意見を参考にしながら、意思決定できる

23

3 評価の実際について

(4) 取り扱った題材そのものの、生徒の内面における価値の深まりとして

○成果

- ・課題→解決のために実践すること→目標を決める、の流れで、**具体的な目標を自身の力で立てられるようになった**。

○課題

- ・実践した内容の振り返り
→「できた」「できない」ではなく。どのくらい改善したか。

例えば、課題：勉強時間が足りない

解決策：時間を決めて取り組む

これまでの1日30分→1日40分になった。

24

おわりに

今年度、クラス替えがあり、メンバーに入れ替わりましたが、1学期期末テストに向けて、今回の取組を継続して行っています。生徒は自分自身の課題解決に向けて、頑張って取り組んでいました。

今後は、私自身も活動を振り返り、取組を改善しながら、活動に取り組んでいきたいと思います。

25

令和6年度

青森県中学校教育課程研究集会

【特別活動部会 指導助言】

下北教育事務所

指導主事 川島 学

26

指導・助言の流れ

- 1 特別活動の目標について
- 2 授業について
- 3 評価について

- 1 特別活動の目標について

27

28

特別活動の目標

集団や社会の形成者としての見方・考え方
を働きかせ、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を發揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、次のとおり資質・能力を育成することを目指す。

(『中学校学習指導要領解説 特別活動編』P11)

29

集団や社会の形成者としての見方・考え方

学級活動(1)で育てた見方・考え方は、やがて職場や地域で生じた問題を、同僚や地域の人々と話し合って解決したり、生徒会活動や学校行事で育てた見方・考え方が、地域や社会の活動に参画したり、地域行事等に進んで参加したりする見方・考え方につながっていく

集団や社会の形成者としての見方・考え方

各教科等の見方・考え方を総合的に働きかせながら、自己及び集団や社会の問題を捉え、よりよい人間関係の形成、よりよい集団生活の構築や社会への参画及び自己の実現に向けた実践に結び付けることである。

(『中学校学習指導要領解説 特別活動編』P13)

30

特別活動において育成を目指す資質・能力

人間関係形成

社会参画

自己実現

31

32

「人間関係形成」の視点

「人間関係形成」は、集団の中で、人間関係を自主的、実践的によりよいものへと形成するという視点である。人間関係形成に必要な資質・能力は、集団の中において、課題の発見から実践、振り返りなど特別活動の学習過程全体を通して、個人と個人あるいは個人と集団という関係性の中で育まれると考えられる。

(『中学校学習指導要領解説 特別活動編』P12)

人間関係を自主的、実践的によりよいものへと形成すること

- ・互いの違いを認め合って、協議したり協働したりする
- ・よりよい人間関係の築き方を体得する
- ・多様性を理解しようとしたりする過程で「築きたい人間関係」を形成していく

33

「社会参画」の視点

「社会参画」はよりよい学級・学校生活づくりなど、集団や社会に参画し様々な問題を主体的に解決しようとするという視点である。社会参画のために必要な資質・能力は、集団の中において、自発的、自治的な活動を通して、個人が集団へ関与する中で育まれるものと考えられる。

(『中学校学習指導要領解説 特別活動編』P12)

学校生活の中で自分が所属している様々な集団の活動に関わることを通して、将来所属する様々な集団や社会に対して主体的、積極的に関わり、様々な問題を解決しながらよりよいものにしていくことによる資質・能力を育てる

- ・「個の成長」の広がり→コミュニティの広がり→「人間関係形成」の広がり
- ・持続可能な社会の担い手としての意識の醸成
- ・「つくりたい社会」の実現

34

「自己実現」の視点

「自己実現」は、一般的には様々な意味で用いられるが、特別活動においては、集団の中で、現在及び将来の自己の生活の課題を発見しよりよく改善しようとする視点である。自己実現のために必要な資質・能力は、自己の理解を深め、自己のよさや可能性を生かす力、自己の在り方や生き方を考え設計する力など、集団の中において、個々人が共通して当面する現在及び将来に關わる課題を考察する中で育まれるものと考えられる。

(『中学校学習指導要領解説 特別活動編』P13)

将来なりたい自分に近づくため、今の自分にできることを考え実践しながら、よりよい自分づくりを目指すこと

- ・他者との関わりの中で自己理解を深めていく
- ・自らの生き方を考え、自己のよさや可能性を生かしながら「個の成長」を重ねること

35

2 授業について

36

2 授業について

題材

「自分に合った学習方法を考えよう」

内容（3）一人一人のキャリア形成と自己実現

ア 社会生活、職業生活との接続を踏まえた主体的な学習態度の形成と学校図書館等の活用

37

2 授業について

本時の目指す生徒の姿

- ・話合いや仲間からの助言をもとに、自身の課題解決に向けた取組を意思決定している。
- ・仲間と助言し合うことで、お互いを高めようとしている。

38

2 授業について

○本時の流れ

(1) 課題の把握

(2) 解決方法の話し合い

①活動の説明

②話し合い活動①

【同じ班の仲間からの助言を受ける】

③情報を整理する

④別の班に移動する

⑤話し合い活動②

【似た課題をもつ仲間から助言を受ける】

(3) 意思決定する

- ①出し合う
②比べ合う
③まとめる（決める）

生徒が題材を自分事として捉えることができる

(1) 課題の把握

本時の課題 「仲間の助言をもとに、課題解決に向けて実際に取り組む内容を決めよう」

【確認事項】

- ・[2学期期末テストの振り返り](#)から次の全校実力テストに向けて、自分の課題を設定したことを確認する。
- ・仲間の意見も参考にして、[次の学習計画で実践する内容を決めていく](#)、本時の流れを確認する。

現状とこの先の展望について、自身の課題をつかむことができる

39

40

2 授業の様子について

的確に生徒の実態を把握し、つまづきに対する対策を準備することも話し合い活動を進める上で大切

- (2) 解決方法の話し合い
- ② 話合い活動①【同じ班の仲間からの助言を受ける】
- ・[解決方法の一覧](#)をもとに、班の仲間と助言し合い、自分用のワークシートにメモをさせる。
 - ・全体の進行を担任がする。時間を計りながら、1人ずつに焦点を当てて進める。
- (ア) 出し合う
- ・班の仲間に解決策を提案する。
- (イ) 比べ合う
- ・解決策を選びたくなるよい点を付け足していく。

2 授業について

同じ課題をもつ他者との交流で、より自分の課題に対し、有効なアイデアを共有することで、よりよい意思決定へと向かうことができる

- (2) 解決方法の話し合い
- ③ 情報を整理する
- ・もらった助言をもとに、情報を整理する。
- ④ 別の班に移動する
- ・情報の整理が終わったら、次の班に移動する。
 - ・班は事前に指定していて、課題の分類が同じ人が集まるようになっている。

41

42

2 授業について

2 授業の様子について

- ⑤ 話合い活動②【似た課題をもつ仲間から助言を受ける】
- ・もらった助言をもとに、[似た課題をもつ仲間に助言と情報共有](#)をする。
 - ・司会と班構成は、事前にこちらで指定しておく。
 - ・進行の原稿を全員に渡し、各班の司会の生徒に進行させる。
- (ア) 出し合う
- ・話し合い活動①でももらった助言を互いに共有する。
- (イ) 比べ合う
- ・集まった助言をもとに、互いが選びやすくなるように、どういう点が、合っていると思うかを出して比べ合う。

持ち寄った意見から、絞っていく段階で、話し合い活動が停滞しないよう、原稿にヒントが盛り込まれている。

2 授業について

(3) 意思決定する

- ・仲間からの助言をもとに、数ある取組の中から自分の課題にあう、実践可能なものを選択する。

【評価の場面】

- ・仲間からの助言をもとに、課題解決に向けた取組を意思決定している。【ワークシート】

話し合い活動を2段階にしたことで、他の仲間の意見を聞き、よりよく意思決定に導くことが出来る

43

44

3 評価について

集団や社会の形成者としての思考・判断・表現

自分らしい生き方の実現に向け、現在の学習や将来の進路についての課題を見いだしている。

主体的に学習に取組、働くことや社会に貢献すること、自己の将来について、適切な情報を収集して考え、意思決定して実践している。



本時の評価→単元の評価規準に到達している具体的な生徒の姿

- 仲間からの助言をもとに、課題解決に向けた取組を意思決定している。

45

3 評価について

3 評価の実際について

(1) 評価をする際に留意したこと、工夫したこと

- 本時は、PDCAサイクルのA（改善）に焦点を当てた学習活動なので、実践ではなく、意思決定することをねらいにしている。
- 自分では、なかなか意思決定することができない生徒のために、自信をもって意思決定ができるように、話し合いの目的に合わせて、グループのつくり方を変えた。

生徒の生活改善の視点、そして、指導する側の改善の視点として

3 評価について

(2) 授業における生徒の様子や変容

- 事前に発表する内容を考えていたことで、自信をもって発表できる生徒がほとんど。
- 仲間のために考えて発言する生徒が多かった。
- 司会原稿を全員に渡すことで、進行がスムーズになり、意見交換に時間をかけることができた。
- よい意見を集めることで、意思決定に迷いがなかった。
- 改善したい内容と実践する内容が合うようになった。

目指す生徒像の達成

47

3 評価について

(3) 学級活動における、意思決定までのプロセスの1つとして

○成果

- 仲間の力を借りることで、解決策の幅が広がることが分かり、協働するよさが実感させられた。
- 自分に自信がなく、意思決定することにためらいがあった生徒にも他者の意見を聞くことで、自信をもって意思決定できることを実感させられた。

○課題

- 日常生活への応用
→自分自身の様々な課題解決のために、仲間の意見を参考にしながら、意思決定できる

さらなる改善につなげる姿勢

48

3 評価について

活動計画（事後）

期日	活動の場	活動内容	指導上の留意点	目指す生徒の姿と評価方法
12/15	帰りの会	・テストの振り返りをもとに全校実力テストに向けて、冬休みの目標、計画を考える。	・実践できそうな計画が立てられるように助言する。	
1/16	帰りの会	・テストまでの取組を振り返り、次回に向けての課題を考える。 ・テスト範囲表を見ながら、学習計画表を作成する。	・できるだけ具体的に振り返り、次回につなげられるようにする。 ・前回は、具体的な解決策をはっきり決めてから計画を立てたことを確認し、このことが将来、よりよい取組にしようとした時に必ず必要になってくることを踏まえて作成させる。	・具体的に反省と課題を記入し、次につなげようとしている。 【ワークシート】
1/26	学活⑤	・学年担当の先生と面談をし、生徒自身が自分で作成してきた学習計画をもう一度見直し、よりよい計画を立てる。	・生徒の目標が実現可能かどうか、時間や内容、学習の進め方について助言する 【観察】	・他者からの助言を聞き、自身を高めようとしている。
2/14	帰りの会	・1年間の取組を振り返り、来年度や将来にどうつなげるか考える。	・今後の受検や将来の職業選択の際に、計画的に学習を進めることの大切さを確認する。	・具体的に反省と課題を記入し、次につなげようとしている。 【ワークシート】

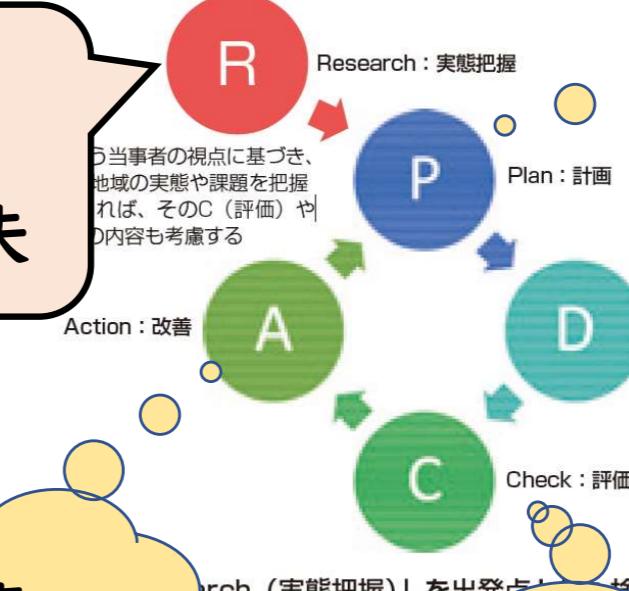
49

3 評価について

実態把握

- ・支援の準備
- ・話し合い活動の工夫

新たな活動意欲を生み出す



工夫改善された全体計画、年間指導計画

実態に即した各活動や行事を実施することが可能

生徒の指導や援助を継続的に行える

『学校文化を創る特別活動』（中学校・高等学校編）【国立教育政策研究所編】P 24

50

学校文化を創る教育活動

集団の中で学ぶ

なすことによって学ぶ

御清聴ありがとうございました。